

会 議 録

会 議 の 名 称	平成30年度第3回弘前市文化財審議委員会議
開 催 年 月 日	平成31年2月14日(木)
開 始 ・ 終 了 時 刻	午後2時55分から午後3時50分まで
開 催 場 所	岩木庁舎2階会議室3
議 長 等 の 氏 名	委員長 福井敏隆
出 席 者	委員長 福井敏隆 委員 岩瀬直樹 委員 岡田俊治 委員 小松勇
欠 席 者	委員 内山淳一 委員 関根達人 委員 瀧本壽史 委員 山田巖子
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	文化財課長 成田正彦 同課課長補佐 神弘樹 同課主幹兼文化財保護係長 小石川透 同課主幹兼埋蔵文化財係長 岩井浩介 同課主事 葛西麻美 同課主事 佐藤俊介 都市政策課 宮本主幹兼計画係長・佐々木主査
会 議 の 議 題	(1) 有形文化財(彫刻)「木造勢至菩薩坐像」の指定解除について (2) 弘前市歴史的風致維持向上計画第2期計画について
会 議 結 果	別添議事録のとおり
会 議 資 料 の 名 称	
会 議 内 容 (発 言 者 、 発 言 内 容 、 審 議 経 過 、 結 論 等)	別添議事録のとおり

【会議内容要旨】

議題（１）有形文化財（彫刻）「木造勢至菩薩坐像」の指定解除について

小松委員 つがる市への仏像の移動はまだされていないのか。

事務局 もう移動している。

小松委員 破損している部分があるとのことだったが、移動の際は大丈夫だったのか。また、仏像の作りはどのようなものか。

福井委員長 寄木だと思うが、私も何回か見たがはっきりわからなかった。

小松委員 寄木だとすれば、肩から支えている感じか。

事務局 須藤先生の調査では、左肩から先の部材の離れているのを合わせている手のところで支えている状態。

移動に関して、弘法寺からつがる市教育委員会への説明によると、一人が厨子を抱きかかえるような形で車に乗って移動し、移動中の破損はないということだった。破損も広がっていない。

小松委員 改修された跡があると伺ったが。

事務局 須藤先生の報告によると、形自体が変わってしまっているようだ。一度だけでなく過去何度も修理が行われて、その都度形が変わっていったようだ。

福井委員長 両手首、手の先はいずれも後補で、面部も近世に補正されたと須藤先生の調査報告に書いてあるので、少なくとも大きく2つ、両手首と面部は後補、補正されたということは確かだ。

岡田委員 つがる市に移動することについて異議はない。住職が亡くなった時点で、この仏像については移動やむなしというふうなことはおそらく考えられていたと思う。心配したのは行く先の管理の状況だが、今日の報告や写真を見ると、以前より多少環境はいいと思う。同じ青森県内での移動なので、仏様にとってもいいと思う。

岩瀬委員 つがる市でしっかりとした管理がされていれば良いと思う。

福井委員長 非常に残念だが、宗教法人間の問題もあるので、仕方がないというか認めざるを得ないというふうな状況。

それでは、弘前市文化財審議委員の会議運営規則第5条の定めるところにより、有形文化財（彫刻）「木造勢至菩薩坐像」を指定解除することで答申することによろしいか。

～全委員挙手～

福井委員長 出席委員中半数の委員の同意があれば会の議決が成立するという事になっているため、指定を解除することを答申する。

議題（2）弘前市歴史的風致維持向上計画第2期計画について

小松委員 田澤さんは茂森の刃物屋のことか。建物自体も刃物屋だという感じで、なかなか趣がある。それを含めての歴史的風致ということで良いのではないかと思う。歴史の部分は面白く読めた。惹きつけられたというかよくまとめられているという印象。

岡田委員 第7章の歴史的風致形成建造物一覧候補について、調査によってはこれからまた増えてくることがあると思う。一覧といっても候補なので追加は可能か。

あと、これからの10年ということでの計画なので、私はわからなかったが、小学校・中学校で「ひろさき卍学」をやっていると聞いた。これはホームルームや学級活動でやっているのか。

事務局 テキストを子どもたちに配っている。これは産業などいろんなジャンルのものが載っていて、それを授業の一環としてやっている。

岡田委員 それから、多言語の説明板の設置数を増やしていかないといけないと思う。観光客が来ることによって文化財の価値に影響があるということはないが、観光客の目的が文化財を見ることとは限らない。文化財に対して言語をいっぱいつけて解説をしてというのではないが、相当数外国の方が見えているので、これから積極的に対応していく必要がある。

それから、弘前城の石垣の件について、今後、全国的に弘前城の名前を売るという言い方が悪いかもしれないが、いい機会なのでぜひマスメディアなどを利用した工事を進めていただきたい。

最後に、建造物の立場から気になることがあった。市民中央広場と旧弘前市立図書館のその後はどうなったのか。

事務局 多言語化の説明板について、重要文化財については前の計画の中で全部設置している。また、石垣については今までどおり調査の成果について公表しながらやっている。これから積み直していくが、報道機関等に情報公開しながら、観光客、市民も見られるような形で公表していく。

旧弘前市立図書館は、今の段階の案としては、短期と長期に分けて現地での修理を計画している。現状、屋根に雨漏りがあって、3階の火災報知機を1基取り外している。まずその状態を改善しなければいけないことから、屋根の葺き替え、火災報知機の改修、穴が開いた壁の補修を31年度予算でやっていく予定。長期的には、昨年度耐震診断をしたが、大きな揺れには耐えられないということもあるので、耐震補強をしていく予定。

ただ、耐震補強をするためには2億円以上の費用がかかることから、財源をどう確保するか非常に大きな課題となっている。国交省の補助事業と照らし合わせると、単体で耐震補強だけするというのは、事業化、採択はできない見通し。その中で、追手門広場全体としてどういう整備や活用をしていくのか、その中で旧図書館の耐震化を図りながら活用していく。その計画があれば補助金が交付されそうなので、計画を作りながら長期的には耐震化していきたい。

牧師館についてはまだまだ先が見えない状況なので、また改めて報告したい。

岩瀬委員 石垣工事で修復をやっているが、工程では平成33年に天守が元の位置に戻ることになっている。実際、その予定で工事が進められているのか。

事務局 天守の耐震化を含めて、石垣についてもどのように積み直していけるかという計画を練っている状況。おそらく、当初の予定よりは若干遅れるという感じはしている。

小松委員 後継者育成のところが2つ書いてある。商工（政策課）で書いてあるところと、文化財課が同じような感じなので、なにかちょっと違った風にしないと同じ事をやっていると言われかねない。使っている写真が保存会の写真のことと、商工政策課でやっていることが混ざっている。

あと、弘前マイスターをやっているが、ちゃんとワークショップを踏まえた展示会などをやるという話をしていたと思う。生徒を呼び込む興味を持たせるなにか、普通の人に興味を持たせるなにかを上手く連携してできればいい

いと思う。

結局、人を育てるというのをやっているの、それがないと次に繋げられないというのをちゃんと軸として上手く連動させればいいと思う。

福井委員長 最後に、私はもう歴まち計画に10年関わってきたが、まず、計画書の作り方の問題で、書き方や資料の扱い方に統一がない。歴史的な文献を扱う我々から言うと、非常に戸惑うという感じ。歴史学のほうでは刊行された本は二重かっこ、資料は一重かっこ、あと引用も一重かっこ、そういう統一性でだいたいやるが、この計画書だと統一性がなくて私は非常に見にくい、読みにくいという感じがしている。それで、同じような事柄が例えば第1章に出てきて、また第2章に出てくる、また次に出てくるというときに、微妙にズレがあるというのは、やはりしっかり統一して書くべきではないかと思う。

あと、以前は重点エリアの輪の中に歴史的風致があったが、今回は弘前市全体の行政区域の中に歴史的風致があり、その中に重点エリアがある。これはなにか国の指示や都市政策課の考え方があったのか。

都市政策課 重点区域と歴史的風致のエリアの設定の仕方だが、これは国から指摘があった。歴史的風致の中の一番重なりが強い所が、主に力を入れてやっていくべき重点区域という考え方ということで風致の見方を広げた。ねぷたであれば制作は各町会でやっている、宵宮も広い地域でやっていると捉えた時に、広いエリアの中で活動があるとそこが重点区域。結論から言うと、重点区域の範囲はほとんど変わっていないが、そういう形で国から指示があった。

福井委員長 市民中央広場の整備の動向について、桜大通りのほうに建物は残っているが、進捗状況や今後のことについてどうか。

都市政策課 市としては、エリア一帯をフラットにするのが希望でいま動いている。

福井委員長 委員の半数の意見しかお受けできないが、今日はこれで第2期の歴史的風致維持向上計画について終了としたい。事務局からなにかあるか。

事務局 先ほどの指定解除の今後の予定について、2月末に教育委員会会議があるので、議案として提出させていただく。そこで承認されると告示という流れになる。報道機関も入っての会議になるので、2月末ぐらいに報道される可能性がある。旧弘前市立図書館の件についても、明日、31年度の予算概要が報道発表になるので、早ければ明後日の朝刊に載る可能性がある。